

Title	ごあいさつ
Author(s)	田口, 鐵男
Citation	癌と人. 2012, 39, p. 1
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/14833">https://hdl.handle.net/11094/14833</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# ご あ い さ つ

理事長 田 口 鐵 男\*

皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、公益財団法人大阪癌研究会に対し、格別のご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昭和10年に大阪財界、有志の方々のご支援により本財団の前身である「大阪癌治療研究会」が設立され、西日本におけるラジウム治療のセンターとして役割を果たして来ましたが、戦後アイソトープの時代となってラジウム事業を終えることになり、昭和39年から「癌に関する学術研究助成事業と癌に関する知識の普及活動」を目的として「財団法人大阪癌研究会」と名称を改めました。

更に、新しく制定された公益法人制度により、平成23年4月1日に「公益財団法人」として認定され今日に至っております。この間、深いご理解とご支援をいただきました企業を始め多くの市民の皆様に、改めて心からお礼申し上げます。

さて、昨年3月11日に発生した東日本大震災や津波による原子力発電所の事故は、いままでに経験のない未曾有な災害で、未だに行方不明者の方がおり、また、現在も多数の方々が避難生活を余儀なくされている状況にあります。改めて、被災された多くの方々に心からお見舞いを申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧・復興を願う次第です。

東日本大震災発生以降、被災者の方々や被災地を支援するため、諸団体や市民の方々が各種の支援活動に取り組まれましたが、本財団をはじめ多くの公益法人もそれぞれ自発的な活動に取り組んでまいりました。

このような取り組みは、人々の支え合いと活気ある社会の実現に向け意義深いものであり、特にその中心的な担い手である公益法人の果たすべき役割は大きく、民による公益の増進の重要性を改めて認識した次第です。

本財団は、癌に関する学術研究を奨励助成し、癌を徹底的に解明してその撲滅を図るとともに、癌に関する知識を一般に普及することを目的としています。

この目的を達成するために、これまで次の事業を長年にわたり全国的に実施してまいりました。

- (1) 癌に関する研究を行う者に対する研究助成（一般学術研究助成及び癌臨床試験研究助成について、研究機関等から癌に関する研究を公募し、助成を実施。）
- (2) 癌に関する知識の普及、啓発活動（会誌「癌と人」の発行と無償配布）
- (3) 財団の目的を達成するために必要なその他の事業

これらの事業の全ては、企業や市民の皆様方からの貴重な浄財により賄われておりますため、運営の基盤となる寄附金の確保が極めて重要となっております。

本財団といたしましては、事業の更なる充実を図り、癌医学の発展に貢献することにより、本財団の社会的使命を果たしたく念じておりますので、今後とも皆様方の力強いご支援とご理解を賜りますよう切にお願い申し上げます。

---

\*公益財団法人大阪癌研究会理事長、大阪大学名誉教授